

2027年度定期総会を開催 活動方針を承認、会員拡大で活発な議論



館大ホールで開催しました。総会には、全国の地方シニアクラブから代議員34名、役員19名、JAM現役2名、ご来賓4名の計59名が出席しました。

午後1時30分開会。冒頭、津田やたろう元参議院議員(長野シニア副会長)をはじめ昨年度中にご逝去された会員に対して黙とうを捧げました。那珂副会長の開会の挨拶のあと、新潟の清水弥一郎さん、九州山口の荒川正行さんが議長団に就任しました。

・宮本会長の挨拶

2027年度(第18回)JAMシニアクラブ定期総会を9月8日、東京・友愛会

最初に宮本JAMシニアクラブ会長より、次のような挨拶がありました。

①自然災害の多発は人間の経済活動による地球環境への負荷が関係している。将来世代に豊かな地球環境を残すため、今生きている我々が責任を果たしていく必要がある。

②会員拡大については、この1年を「成果を得るための準備期間」だったと位置づけ、これからの1年は、成果物を手にする取組みにしていかなければならない。

③一部の高所得者や高年金受給者がいる一方で、低所得、低年金で苦しむ国民も少なくない。国や自治体の示す統計では、格差が見えにくくなっている。我々の声を政策

制度に反映させるためには、組織力を活かしたデータ収集力や、政策研究能力を高めて行く必要がある。

④向こう1年間の取組みとして、会員拡大の成果をあげ、2028年7月に予定される参議院選挙で実質的に組織内国会議員である「村田きょうこ」の再選を勝ち取るための活動に集中する。

・JAM会長の挨拶

JAM安河内賢弘会長からは、シニアの拡大は現役の運動にとっても波及力の拡大、政治的影響力を高めるために重要である。現役として貢献が出来るよう話をすすめていきたい。2026春闘は、結成以来初めてベア平均で10000円を超える好結果となった。物価高が続く中、来年の春闘も力強い方針を掲げている。村田きょうこ議員はまさに理想とすべき国会議員である。もう一度国会に送りたい。全国各地で先輩の立場からJAM現役への叱咤激励をお願いしたい。

・日本退職者連合の挨拶

日本退職者連合を代表して宇田川浩一事務局長からは、政策制度要求について、7、8月にかけて関係省庁や友好政党への要請行動を行ってきた。高市政権の国会軽視の運営、また、国民生活をかえりみない国論を二分する法案を強引に通すやり方は問題である。しかし野党が細分化して与党に對峙出来ていない。与党に對峙出来る体制がつけられるよう連合と一緒に取組みをすすめていきたい。組織拡大の取組み、平和を守る取組み、政治への信頼を回復する取組みを全力ですすめていきたい。

〈裏面に続く〉

主張



わが国は、社会の変化や医療分野の発展などにより、高齢化と少子化が同時に進行していることから、四半世紀以前と

JAMシニアクラブは、「生きがい・自立・相互扶助・社会貢献」を理念に、JAM構成組合の組合員が現役引退後も高齢者が自立し、生活や社会参加が出来る様々な「場」を提供することなどを目的に、2001年9月15日に結成され、2026年9月をもって25周年の節目を迎えることができました。

比べると、高齢世代を取り巻く環境も大きく変容しています。現在の日本は、少子高齢社会へと突き進み、総人口に占める労働力人口の割合が低下し続けており、これまでの公的年金制度や介護システムなどの社会保障制度が維持できなくな

JAMシニアクラブ 結成25周年の節目にあたり

JAMシニアクラブ会長 宮本礼一

てきており、社会保障に関する給付と負担のバランスが崩壊する可能性も想定されています。

このような状況をふまえ、予想される厳しい未来を想定しつつ、政府や地方自治体が策定した施策に委ねておくだけではなく、私た

ち自身も社会や国民生活の変化と課題に向き合い、郡山りよう参議院議員や村田きょうこ参議院議員などと共に、私たちがめざす政策制度を実現することなどが、労働組合を基盤とする高齢者組織に求められています。

私たちJAMシニアクラブは、これまでの四半世紀の活動と社会・経済の動向などを検証しつつ、高齢社会の課題である「福祉と健康」、「就業と所得」、「社会参加」、「生活環境」など、高齢者世代に深く関係する政策制度改善に取り組むことで、高齢者のみならず全世代の国民生活の安定向上を図りたいと考えています。

結成25周年を契機に、会員減少に歯止めをかけ、会員拡大に向けて一人ひとりの力と知恵を結集し、組織の総力をあげて課題解決に取り組むことを改めて誓い合いたいと思います。

〈表面から続く〉

・基幹労連シニアクラブの挨拶

兼子昌一郎会長からは、厚生労働の郡山りよう、経済産業の村田きようこ、政策制度をすすめるにあたって、二人の議員はツインタワーである。モノづくり産業の発展、そこで働く者の幸せの追求、また高齢者の課題についての政治分野での解決など二人の議員はじゅうぶん期待に込める活躍をしている。村田きようこは両組織の共同候補、共同議員である。引き続きのJAMさんの支援をお願いする。

・郡山りよう参議院議員の挨拶

郡山りよう参議院議員からは、熊本地震に対する政府への要請に、雇用調整助成金の早期拡充を盛り込み実現することが出来た。雇用を守ることが復興の近道という津田やたろう先輩のバトンを受け継いだことを実感した。ものづくりの発展、働く人の権利を守る、二つの課題を村田きようこさんと共に両輪で回していかなければならない。村田さんはこれからの政治に必要な人材である。シニアクラブの皆さんの村田さんへの支援をお願いする―との熱い挨拶をいただきました。

・地方の意見・要望

活動報告、会計報告を満場の拍手で確認したあと議

案審議に入りました。

第1号議案「2027年度活動方針案」の審議では、

①会員拡大について「現役役員や退職予定者にOB会の活動を知ってもらうことが必要。また、他産別には組合規約で退職後OB会加入を義務付けている単組もある。高齢者については現役時代から加入してもらう仕組みが必要」(富山)、「単組OB会の設立について、JAMの実態調査による」とほとんどすすんでいないし、現役には設立の意志もない。具体的にどうすすめていくのか(大阪)、「地域では女性が生き生きしている。女性が参加しやすい活動を提案する」と変わっていくのではな

いか(兵庫)、「シニア共済に移行する退職者は自動的にシニアクラブの会員になるという仕組みがつくれないか」(香川)。

②政策制度の取組みについては「特殊詐欺についての学習会が、政策制度学習会の補助金対象にならなかった。政策制度課題ではないのか(長野)。

③平和・人権については「高校生の事故死により辺野古移転の反対行動が厳しい局面に立たされている。支援すべきではないか」(兵庫)との質問や意見表明がありました。

本部答弁のあと、採決の結果、2027年度活動方針案は満場一致で承認されました。

第2号議案「2027年度予算案」も満場一致で承認され、午後4時20分、すべての議事を終了し最後に宮本会長の発声で、ガンバローを三唱し閉会しました。

結成25周年記念祝賀会を開催



定期総会終了後、「東京グランドホテル」でJAMシニアクラブ結成25周年記念祝賀会を開催しました。祝賀会には、JAM、日本退職者連合、基幹労連シニアクラブ、郡山りよう参議院議員、村田きようこ参議院議員、シニア三役OBなど11名のご来賓と定期総会に出席した代議員・役員など総勢66名が出席しました。



紹介のあと代表して安河内JAM会長、総会には欠席された村田きようこ参議院議員よりご祝辞を頂きました。大山顧問の発声による乾杯で懇談に入り、コロナ下でマスクをしながら肅々とすすめられた20周年とは異なり、あちこちで交流の輪が出来、賑やかな祝賀会となりました。箕浦副会長の閉会の挨拶で終了。最後の最後に、再来年の「村田きようこ」必勝を誓い合い、ガンバロー三唱で幕を閉じました。

JAMが第28回定期大会

JAMの第28回定期大会が8月27、28日、岐阜市で開催、2027年度活動方針、予算案、「村田きようこ」推進計画、

2027年度政策制度要求、などの諸議案を白熱した議論の上承認しました。

活動方針の中で、シニアクラブについて「シニアの会員拡大の意義・目的をあらためて確認するとともに、地方JAMと地方シニアの連携実態の把握や従来の施策に関する課題の明確化・共有化をはかる。その上で、シニアクラブと現役が拡大に向けた具体的対応の協議を深める」と述べられています。

大会にはシニアクラブから中央三役全員が出席しました。

政策制度の学習会

埼玉 山田順康 事務局長

埼玉シニアクラブは2026年6月24日(水)政策制度学習会を15名の参加で実施しました。今回の学習会は国会見学と郡山りよう議員との意見交換の他、郡山議員が出席している「デジタル・AI特別委員会」の傍聴、村田きようこ議員との意見交換の機会も得られ大変有意義な学習会となりました。

11時30分永田町の参議院会館入口に集合し、郡山議員秘書の谷垣内さんから「館内通行証」(通行証は館内必携)を受け取り

会館の中に移動。12時から郡山議員の活動報告を受けた後、昼食を摂りながら意見交換を行いました。

その後、デジタル・AI特別委員会を傍聴するため「傍聴券」が配布され国会議事堂に移動、数回のセキュリティチェックを受けて3階の議場に到着。議場にはマスコミで見たことのある与野党の議員・スタッフを着席し、松本大臣や各委員の真剣に質疑、答弁をしている様子を目の当たりにして国政を預かる緊迫した雰囲気を感じました。

議場退室後、郡山議員、村田議員の事務所を見学、その後村田議員との意見交換がされ瞬く間に予定時間を超過してしまいました。国政を預かる両議員と膝を交えての意見交換や特別委員会

